

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270101197		
法人名	延寿グループ株式会社		
事業所名	アット・ホームケア千葉中央		
所在地	〒260-0808 千葉県千葉市中央区星久喜町155-5 (電話) 043-305-2655		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	3月17日

## 【情報提供票より】(21年2月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算 6.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺き2階建て		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円 (居室の広さにより違いあり)	その他の経費(月額)	水道光熱費28,000円他	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	24ヶ月で均等償却	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
		1日あたり1,450円 1ヶ月あたり43,500円		

### (4) 利用者の概要(2月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福元クリニック 斉藤労災病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

その名のとおりアット・ホームで、入居者職員が一体となって和気あいあいと生活しており、皆、温かな柔らかな顔で毎日を楽しく過ごしている様子が見て取れた。周囲の環境もよく、住宅街と商店街、公園が隣接して日常の散歩から買物に至るまで便利である。経営主体が医療系なので医療的、衛生的配慮に裏付けられた介護が充実し、ケアマニュアル等、記録物なども行き届いた配慮が伺われる内容になっている。地域との繋がりを深めることには力を入れており、新年会では、近隣の独居高齢者を招いて楽しいひとときを過ごしたとのことである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部3) 日常生活での近隣とのふれあいを通じて自然な交流が図れるよう努力しており、徐々に親しまれる存在になってきている。ホーム側から地域に働きかける姿勢が見受けられ、今後も継続していくとのことである。その他、前回改善課題として掲げられた項目のうち、家族との十分な意見交換の機会確保、職員を育てる取り組み、災害対策については、今後も取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部7・9・10・11・19・2) 自己評価はホーム長以下職員全員で、概ね、着実に実施されていると思われる。職員の育成については、視野、経験を広げる意味で外部(公的機関、グループ外の他事業所などの私的機関)の講習、研修も機会あるごとに受講できるようチャレンジすることが望まれる。
重点項目	災害対策(関連項目:外部27) 昨年からの課題でもあり、火災、地震、水害、(千葉市中心部は低地でもある)においては万全の対応が望まれる。特に夜間対応、2階からの避難、災害後の復帰などについてマニュアル、必要な災害対策グッズの備置、その他、実際の災害発生を想定して十分に議論、検討して整備していくことが重要と思われる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 理念に従い、個人対応については十分情報が家族にも伝達されているが、運営を含めホーム全体の状況を伝える情報は、増やす必要が感じられる。ホーム便りも休刊中と聞くが、定期的に発行して、ホームの明るく楽しい雰囲気を家族や関係者に発信するとさらに安心感が深まると思われる。
重点項目	同業者との交流を通じた向上(関連項目:外部11) 同一法人内に4事業所あり、法人内で情報交換、研修などができる。また一部の親しいグループホームとは交流しているが、視野、発想を広げる意味で他事業所との交流を増やすことも望まれる。当ホームに隣接して介護老人福祉施設がオープン予定のため、同施設との連携、協力を模索しているとのこと、今後の交流や地域の介護拠点となっていくことが期待される。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念	理念として「自立支援・個別対応・家庭的雰囲気」を掲げ、これを玄関や事務室など、目に付く場所に掲示する他、パンフレットにも記載している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念をよく理解した上で、サービス提供の現場職員が自ら考え出したというマナー・心構えとも言うべきモットー「笑顔で楽しめる気持ちいい介護」を合わせて定め、理念とともに掲示されて、現場でのケアに生かされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合に参加している。日常生活の中で身近な商店、近所の方と親交を深めているほか、ホーム自ら新年会その他の行事を企画し、民生委員の協力を得て、近所の独居老人を招待するなどして地域交流に努めている。また、いきいきサロンに参加するようにした結果、地域でのホームの存在・認知度は、昨年比、確実に上がっている。		取り組みを更に継続してゆくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	できていること、できていないことを職員全員で確認し、問題点や改善点を話し合っている。介護度の重い入居者と軽い入居者に対する均等・平等なサービス提供を課題として確立するに至るなど、外部評価受審がホームの具体的な取り組み課題・目標を定める端緒となっている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一回開催している。事故報告など報告事項のほか、参加者からの質問要望に答えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の相談員は不足しており、また多忙でもあるようで、今年度は依頼したが断られてしまった。あんしんケアセンター、権利擁護関係の機関、高齢者援護課などの連携は取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回報告している。また、電話などの際に状況を知らせている。面会時にも伝えたいと思うが、家族に遠方者が多いせいか、あまり面会に来ない。		入居者個々の情報はこまめに家族に発信しているが、ホーム全体のイメージ、運営に関する情報も発信することが期待される。休刊中のホーム新聞を再開すると、より情報が伝わると思われる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からケアプランに対する意見、要望事項はでてくるが、運営については特に意見がないのが現状である。		家族に潜在的ニーズは無いが、満足度調査などの機会を作ることが必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年で正社員1名の入替わりがあった。異動は家族に報告するとともに、食事等の機会を捉え入居者に新入職員を紹介している。職員の退職については、入退職者間でしっかりと引継ぎを行ってから入替わるようにしている。引継ぎのため、パートで3～6ヶ月、正職員の場合1年くらい時間をかけたこともある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務中でのマンツーマン指導が原則である、職員の配置や勤務体制を工夫して、救命救急講習、身体拘束、認知症などの研修を、随時受講できるようにしているが、外部研修の機会はもう少しあると更によいと思われる。		若い職員が向上意欲に燃えているので、できるだけ多くの機会を捉えて、研修に参加できるようになることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親しいグループホームと年1～2回交流している。同一法人内の他事業所とは、年2～3回共同で行事をしたり、随時研修させたりしている。また、ホームの目の前に特養が建設中であり、近々オープンすることと、連携・協力を検討中とのことである。		他法人、他の施設との交流の機会を増やし、情報交換や改善点の発見等に繋げることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族ほか関係者(入居前に訪問していたヘルパーや近隣住民など)から情報を得たり、食事の好みを聞いたり、ホーム内で仲よくできそうな人を見つけたりするなど、さまざまな努力をしている。大体2～3週間程度で、当初そわそわしていた人も落ち着いた表情になるという。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々のできること、できないこと、好きなこと、嫌いなことの把握に努めている。また入居者の話や行動で、意外な発見をすることもあるという。自立支援を徹底しており、調査当日も、料理の手伝いや後片付け等を、入居者が生き生きと楽しげな表情でやっている様子が見られた。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時に家族から話を聞いたり、日々の会話や表情、しぐさなどから把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回全体会議を開いて情報交換するとともに、3ヶ月に1回、モニタリングをしている。家族や医師など関係者の意見も取り入れた上で、計画作成担当者が計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを中心に、入居者に変化が見られれば、随時カンファレンスを行い、計画を変更する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	民生委員や地域の高齢者を抱える家族の相談などを受入れている。家族の希望に応じ、訪問歯科や訪問リハビリを利用できる。体験入居も行なっている。最近では、地域の独居高齢者を招いてホームで新年会を行なった。同法人の他ホームとの連携によるサービス提供も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療機関であるので、そこから月平均2回訪問診療にきている。提携医以外の医療を希望する場合は、家族が送迎する。入居者は概ね提携医をかかりつけにしている。また、6ヶ月に1度血液検査を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員には救急救命の対応を徹底しており、何かあれば、管理者や家族、医師等に連絡する体制もできている。ターミナルケア移行の基準は、経口摂取ができなくなったとき及びホーム2階の上り下りが出来なくなったとき、継続的な医療行為が必要となったときで、他施設への移動が基本となっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレにはカーテンをつけて排泄の様子が見えないようにするなど、羞恥心には十分に配慮している。個人記録を必要に応じて関係先に開示せざるを得ない場合は、家族から了解をとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりは食事時間と入浴の曜日のみである。散歩、外出は出来る限り入居者本人の意向、希望を尊重している。ADLが低下している人と元気な人それぞれの生活の充実が今後の課題となっている。		介護度の高い入居者に職員の手がとられがちだが、元気な入居者にも積極的に生活を支援していくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が考えるが、週1回お好みメニューがあり、入居者の好きな料理をつくり、誕生日には職員が付き添って食べたいものを外食することもある。入居者の状態によってはミキサー食を提供するなど、皆が食事を楽しめるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的に週2回の入浴である。入浴日を2日に限定しているのは、職員の手を空け、入居者の自由な活動時間をより一層支援することを優先しているからとのことである。シャワーや清拭などは、入居者の状況に合わせて随時行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立支援が実践されている。料理、後片付けなど入居者ができそうなことや得意なことを、職員が本人の了解を得て依頼し、楽しげに行なっている様子が見られた。手芸をする人、リハビリに励む人、ホームの飼い犬を世話する人など、各自マイペースで生活を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前に公園がある。また大型スーパーも近くにあるという恵まれた環境にあり、散歩や買い物などを随時行っている。また月に一度は職員・入居者全員で、外出をするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のために玄関のみ施錠しているが、入居者でも開けられるような鍵である。一人で外に行き帰れなくなる恐れのある入居者には、個室にセンサーをつけている。外出しそうなときは化粧、服装、持ち物でもわかることと、職員は見守りをしっかりと行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っている。また夜間に職員一人でも異変に対処できるようマニュアルなどを整備し、周知徹底している。避難時に備えて救急箱一式はあるが、災害時に備えた用品や避難誘導マニュアルなどは更なる充実が必要と思われる。		非常災害時における夜間の対策、2階の入居者の避難の手順、職員の役割、災害対応グッズの整備など、全体と詳細を今一度見直した上で、訓練時に再確認するなど、災害発生時とその後の対応に一層の万全を期すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴時に体重をチェックするとともに、定期的に管理栄養士がきて栄養バランスを確認している。食欲がない入居者には、補助食品を利用するなど工夫をし、水分は飲みたいときに職員に声をかければ飲めるようになっている。(水分の過剰摂取になる人がいるため)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は明るく静かな環境とあいまって居心地がよい。その他の共用部分も清掃が行き届いて清潔である。入居者同士の関係や座席の配置にも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々が思い思いの品で居室をデコレーションしており、状態に応じてポータブルトイレ、センサー、車イスが目立たないところに置かれている。どの居室も居心地よく過ごせるようになっており、食事が終わると自分の部屋に帰る入居者が多いとのことである。		